



「光の持つ意味」

2023年12月

中学宗教主事 川俣 茂



光は暗闇の中で輝いている。
暗闇は光を理解しなかった。

(ヨハネによる福音書 1章5節)

クリスマスを迎えようとするこの時期、街には「光」があふれています。それは日本だけではありません。世界各地でも「光」があふれている。見上げるほどの巨大なクリスマス・ツリーが立ち、競ってリースなどを飾り付け、ウィンドウには、かわいく凝ったディスプレイをほどこす。都会の騒がしさと光の渦に囲まれた世界が広がっています。クリスマス・ツリーに光をともしたり、ろうそくに火をともしたりして、光があふれているのは、ただ光がきれいだからというのではなく、クリスマスにおいては「光」というものがとても大切な意味をもっているからこそ、「光」ともすのです。

聖書は、繰り返し、イエス・キリストが「光」としてこの世界に来られたことを伝えています。主イエスご自身が、「わたしは世の光である。わたしに従う者は、暗闇の中を歩かず、命の光を持つ」と語っています。また聖書は「言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」とイエス・キリストの誕生を記しています。キリストは、「世の光」として、暗闇の中にお生まれになったということが、クリスマスの大変な意味なのです。現代では、夜でもネオンが光り輝き、暗闇などは少なくなったと感ぜられるかもしれませんが、しかし、文明による明るさ、華やかさや豊かさとは対照的に人の心の中はすすんでいて、なお暗闇の中にいます。闇の中で希望を持たず、不安を抱きながらも自分を省みず、自分は悪くないと主張し、全て周りに責任をなすりつける。自分でもどうしたらよいのかわからず、「希望の光」を見出せないで、悩み、苦しみ、この世をさまよってしまうことになるのです。

ドイツでは、2003年のクリスマスシーズンに実に27,000,000本のクリスマス・ツリーが売れたと聞いたことがあります。その結果、確かに世の中のある部分は光っているように見えました。しかし、その光は実際に世の中を少しでも良い方向に変えられたのでしょうか。そのクリスマス・ツリーのイルミネーションが、一人ひとりの心にも反映しているのでしょうか。そう考えてみると、聖書からすると、この社会での現実のクリスマスは、「光」の意味を忘れ、まるで主人公のいない誕生日のお祝いみたいになってしまっているような気がします。

聖書に書かれている本当のクリスマスには、クリスマス・ツリーも、飾りも、ケーキも出てきません。街々がイルミネーションで輝くこともありません。それでもクリスマスの光は消えてなくなることはない光なのです。この「光」とは何か。それは先程も申し上げたように、主イエス・キリストです。クリスマスは、その主イエス・キリストが「光」となって、この世に生まれた日です。みんなで本当のクリスマスをお祝いし、喜びたいと思います。

